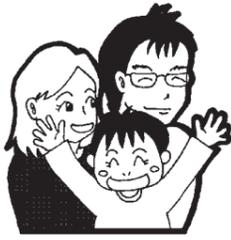


2023年 春季号
第50号

みらい川崎市議会議員団
〒210-8577
川崎市川崎区宮本町1番地
川崎市役所第二庁舎内
TEL.044-200-3355
FAX.044-245-4135



みらい川崎市議会議員団 川崎市議会 副議長 立憲民主党

おだ かつひさ PRESS



〒216-0003
川崎市宮前区有馬6-6-1 五十嵐ハイツ102号
TEL & FAX : 044-856-5456
E-mail:oda@odakatsu.com
URL http://odakatsu.com/

活力と潤いのまち宮前区に創り変えよう

宮前区を「もっと居心地よく」「もっとスムーズに」 機能的な生活を実感できるまちに!



具体的な提言
確実な実行



田園都市線が開通してまもなく60年。宮前区が高津区から分区して40年が経過しました。閑静な住宅地として発展、成熟してきた宮前区です。

その一方で、宮前区の「人とまち」は確実に高齢化、老朽化に向かっております。これから直面する少子高齢社会と人口減少社会にあって、東京近郊においても「自立できる郊外」と「衰退する郊外」への分化が強く懸念されています。生き残りをかけた地域間競争はすでに始まっているのです。

田園都市線の沿線を、また宮前区を「衰退する郊外」にする訳にはいきません。

もはや「閑静な住宅地」というブランドだけでは、これからの生活は成り立たないのです。

そのために宮前区のまちづくりに「仕掛けと工夫」が必要と考えました。

「鷺沼駅前地区再開発事業」がめざすもの

持続可能で活力のある「宮前区」を目指すための基本は、高齢者だけが住む街ではなく、いつまでも一定のバランスで幅広い世代の方々が住み続けている街であると考えます。

そのためには、人は家だけでなく「街にも住む」という考えのもとに、「住まう」だけの街ではなく、それぞれの世代に必要な多様な機能がコンパクトに備わっていることが重要なポイントです。

つまり、「多世代」と、それぞれに必要な「多機能」が重要なキーワードです。さらには「民間企業が投資して採算がとれる魅力的な街」であること。そして、「地域の経済が回る街」であること。つまり、「再投資」と「生産」がキーワードであることも調査の中で私が得た知見です。

まず、鷺沼駅周辺を「地域生活拠点」として整備

公共機能の再編成を官(川崎市)が用意し、将来の街を支えていく(市民のニーズに対応する)多機能を民間(再開発準備組合)が用意する再開発事業が動き出しました。これが官と民の連携による「地域生活拠点」整備です。「地域生活拠点」とは、ワンストップで多様な宮前区民の求めるサービスを提供することのできる機能を鷺沼駅周辺に整備する、とも読み替えることができます。

この機会を捕らえて、宮前区民が川崎市と連携しながら、自らの街を変えていく努力が必要と考えます。



宮前区の解決すべき長年の懸案への対応が可能に

坂道の多い宮前区での市民の移動の手段が貧しいこと。コミュニティバスの導入なども、市民の要望が大きいものの一方向に進んでいません。2009年と2015年に「有馬・東有馬地区コミュニティバス運行実験」を川崎市内で第一号として、関係町会、商店会の皆さんと実現しましたが、本格運行にできませんでした。運行を不可能とした当時の川崎市の理由が「採算性の課題と鷺沼駅前に現状では新規にバス停を設置できるスペースがない」とのことでした。

これが、私が「鷺沼駅前の再整備」を思い立った原点です。

さらに、地域間(宮前地域と向ヶ丘地域)の交通アクセス環境面での整備が遅れていること。また、川崎市の都市計画マスタープランでは「鷺沼駅周辺と宮前平駅周辺がそれぞれ地域生活拠点」とされているものの、まちづくりの実態が伴わず、川崎市も宮前区もこの課題を放置してきたことなどがあります。

これらの長年の課題を鷺沼駅周辺を「地域生活拠点」としてあらためて整備することで、大きく改善できると期待しています。

「宮前区のミライづくりプロジェクト」が動いています

川崎市は2019年に「鷺沼駅周辺再編整備に伴う公共機能に関する基本方針」を策定しました。そしてこの方針に基づく「宮前区全体の将来」を見据えた取り組みを推進するため、「宮前区のミライづくりプロジェクト」が進行中です。

まず、向ヶ丘出張所を「地域の多世代が気軽に立ち寄り、ひとや活動がつながる、向ヶ丘地域の核となる」施設となるように、機能面とハード面の改修が3月中を目途に進んでいます。

駅アクセスに向けた取り組みもこのプロジェクトの柱の一つです。

宮前区のミライづくりプロジェクトの概要について

宮前区のミライづくりプロジェクト

- 1 新宮前市民館・図書館・区役所の整備に向けた取組
- 2 現区役所等施設・用地の活用に向けた取組
- 3 向ヶ丘出張所の機能の充実に向けた取組
- 4 駅アクセス向上に向けた取組

再開発事業
鷺沼駅前地区



鷺沼駅前再開発事業については、2023年度中に都市計画決定など関連法手続きが完了し、2024年度後半には具体的な工事に入る予定です。

「多世代」が必要とする「多機能」について、併せて、バス路線の再編整備などによる交通アクセス環境に対する市民ニーズの把握に努めてまいります。

積極的なご意見などお寄せいただけますと幸いです。

宮前区に新たな「核」をつくる!このプロジェクトが、未来のまちづくりの「原点」になっていく

「コミュニティバスの導入が、老後の幸せを支える」。この思いが、宮前区のまちづくりへのこだわりの始まりでした。

2009年と12年、2度の「有馬・東有馬地区コミュニティバス運行実験」を経て、川崎市の取り組みには課題が噴出しました。

どうしたら市当局が本気で整備に取り組みさせることができるか――。

まさに闘いの連続となりました。

そこでまず、当時進行中であった「たまプラーザ駅周辺の再整備」を参考に、川崎市と東急電鉄との「持続可能なまちづくり」を検討するプラットフォームづくりに議論を重ねました。

2015年の「東急沿線まちづくりに関する包括連携協定」は、その結実です。

鷺沼駅周辺ではその間にも、2011年の「北口改札」の実現をはじめ、「喫煙スペースの移動」「桜並木の更新整備」計画、フレル前「横断歩道の信号設置」、さらに「聖マリ医大病院への直通バス」などを実現してきました。

また、川崎市と東急電鉄が「持続可能なまちづくり」の方向性を同じくした協議の場を設定したことで、宮崎台駅では2014年の「駅前商業複合施設」と「駐輪場の整備」、宮前平駅では2019年の「改札階とホームをつなぐエスカレーターの設置」、さらに区内駅全てに「ホームドアの設置」の実現にもつながってきました。

川崎市の総合計画に位置づけられたこのプロジェクトの大眼目は、「宮前区全体の活性化を促す核としての地域生活拠点の形成を図る」ことです。そして「主要な交通結節駅」として駅前のバスターミナルが2倍の広さになることで、バス路線の新設や向ヶ丘地区からの増便を行うことなどが想定されています。

コミュニティ交通の拠点づくりの前提条件も、これでそろいます。

まさに《宮前区のミライ》をつくる原点が生まれる――との期待を集める理由が、ここに 있습니다。



※検討中イメージ